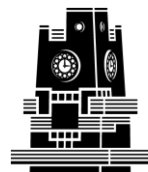


学校現場におけるアセスメントと ICT利用による読み書き支援

近藤武夫

東京大学 先端科学技術研究センター

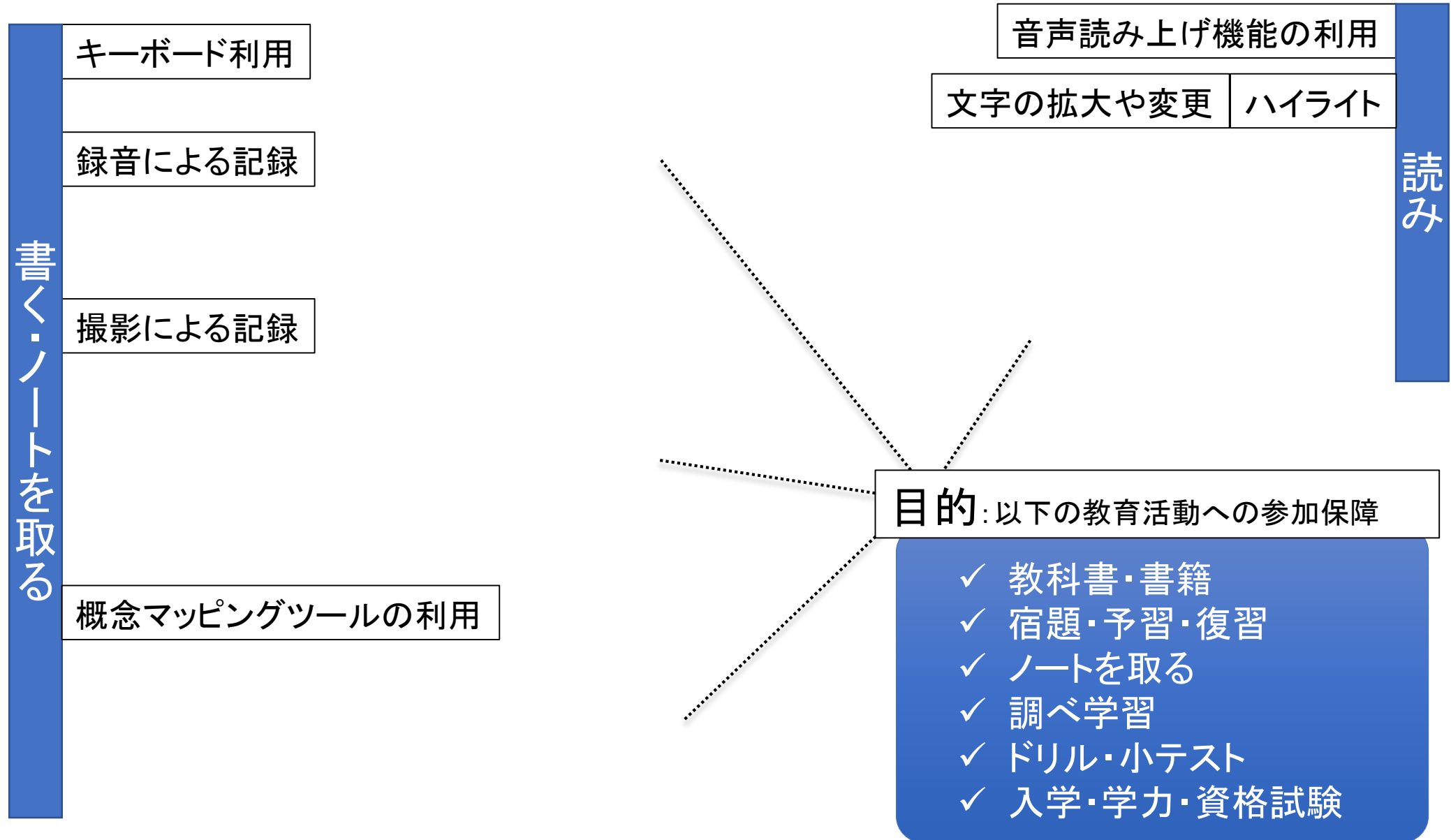
kondo@bfp.rcast.u-tokyo.ac.jp



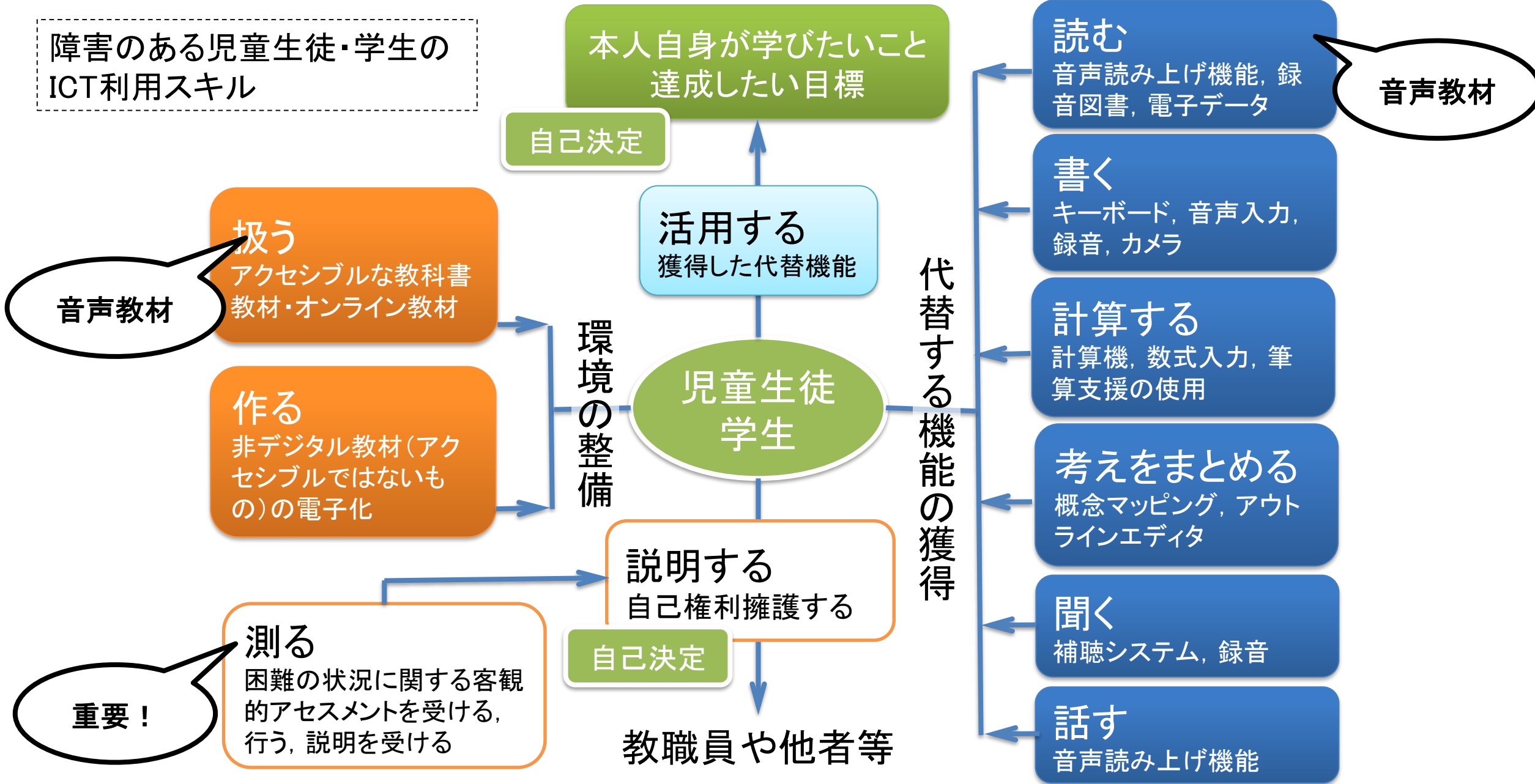
東大先端研

Research Center for
Advanced Science and Technology
The University of Tokyo

通常学級でのICTによる読み書き支援 DO-IT Japan (<http://doit-japan.org/>)の実践例から



障害のある児童生徒・学生の ICT 利用スキル



理解 学ぶ権利があること, 合理的配慮は公平さを実現するものであること

障害者差別解消法の文科省対応指針におけるICT利用 (2015年11月)

- 不当な差別的取扱いの例
 - ○試験等において合理的配慮の提供を受けたことを理由に、当該試験等の結果を学習評価の対象から除外したり、評価において差を付けたりすること。
- 合理的配慮の例(下線は筆者)
 - ○入学試験において、本人・保護者の希望、障害の状況等を踏まえ、別室での受験、試験時間の延長、点字や拡大文字、音声読み上げ機能の使用等を許可すること。
 - ○点字や拡大文字、音声読み上げ機能を使用して学習する児童生徒等のために、授業で使用する教科書や資料、問題文を点訳又は拡大したものやテキストデータを事前に渡すこと。
 - ○読み・書き等に困難のある児童生徒等のために、授業や試験でのタブレット端末等のICT機器使用を許可したり、筆記に代えて口頭試問による学習評価を行ったりすること。

Eligibility Assessment by Standardized Reading & Writing Tests

配慮の適格性判断に活かすアセスメント

読み書きのアセスメントの必要性

- 「読み書き障害＝全く読み書きができない」ではなく、「読み書きを正確かつ流ちょうに行うことができない」状態のことです。知的な障害とは異なるため、文章の意味を理解できないわけではありません。
- 「文字を見て認識することは難しいが、音を聞いて意味を理解することはできる」、「文字を拡大したり、行間を広げたりといった調整で意味の理解が助けられる」という児童生徒も少なくありません。
- では、どのようにしてそうした読み書き困難を見つけ出すか？学校でよく行われるWISC(知能検査)では、読み書きの能力を測ることができません。そこで、適切な読み書きのアセスメントを行う必要があります。
- アセスメントは、音声教材支援を、ためらいなく行う・認めることができる根拠にもなります。この講義では、教室で有資格者でなくても簡単に実施することができるアセスメントのいくつかを紹介します。

読み書きの困難

- 読むことが遅いと？
 - 理解が不十分なままに教科書の学習が進んでいく可能性
 - テストの問題文を読むことに時間がかかり、理解できていても解答できていない可能性
- 書くことが遅いと？
 - 黒板をノートに全部写す前に消されてしまったり、書くことに極端な苦痛を感じていることも
 - 試験の途中で時間切れになってしまうことも
- その結果として？
 - 理解できており、書きたいことはあるが、表現ができない、評価されない状態に
 - 学習が遅れたり、意欲をなくしてしまっている可能性
- 読み書きの速度や正確性を確認する
 - 学年ごとの平均値と比べ、個々の児童生徒の読み書き困難の状態を客観的に把握しましょう。
 - 極端に読み書きの困難がある場合、「自分の目で文章を読む」、「鉛筆を使って文字を書く」以外の別の方法を使うことを考慮しましょう。

1. STRAW-R

改訂版 標準読み書きスクリーニング検査 — 正確性と流暢性の評価 —

<https://www.intern.co.jp/?p=2759>

■ 評価内容

- 小学1年生から高校3年生まで使用できます。
- ひらがな, カタカナ, 漢字の3種類の表記について比較できます。
- 速読課題は文章課題を含んでおり, 高校や大学入試で試験時間の延長を希望する際の客観的な資料となります。

■ 課題構成

- 音読速度を調べることのできる速読課題
- 漢字の音読年齢が算出できる漢字音読課題
- 中学生用の漢字単語課題
- 音読・書取(聴写) …など

2. URAWSS II

Understanding Reading and Writing Skills of Schoolchildren II

URL: <http://www.atac-lab-shop.com/?pid=120403674>

■ 評価内容

- 読み書きの速度を評価することができます。
- 対象年齢を中学生までに拡大。
- 学年平均と比べることができます。
- 個別でも集団でも実施可能。

■ 課題実施内容

- 書き課題は、書かれた課題を、3分間視写し(できるだけ早く、ただし丁寧に書くと教示)、1分間の書き速度を算出します。
- 読み課題は、書かれた短文を、一定時間黙読し、次のページに書かれている内容理解を問う問題に○×で解答してもらい。その後、1分間の読み速度を算出し、内容理解の正答数を出します。

※英単語の読み書き評価 URAWSS-English (ウラウス イングリッシュ)では中学生における英単語の習得度が評価できる

発展：URAWSS IIをICT利用の効果判断に活用

書き課題：手書き → 「ワープロ」で行うと？

読み課題：自力読み → 「代読」で行うと？

- 読みの介入課題では，音声による補助の効果を検討することができます。
- 書きの介入課題では，手書きと様々な書字の介入手段(ワープロで入力する，課題用紙を拡大する，持ちやすい筆記用具を用いる等)の違いを比較することができます。

※読み書きの方法が変わると遂行成績がどう変わるかを確認し，ICTによる代替の効果を測る

3. 標準読書力診断テスト

B1用紙、B2用紙を使用

(絶版のため、利用に関心のある方は東大先端研人間支援工学分野までお問い合わせください)

■ 評価内容

文章理解の「正確性」を評価することができます。
理解度を学年平均と比べることができます。

■ 課題実施内容

短文を読んで、それに合う正しい絵に○や×をつけたり、絵を線で結んだりする課題です。

東大先端研では、このテスト中の、同じ形式と難易度の2つのテスト(内容が少し異なる)を、普段通り自分で解く条件と、検査者が横で読み上げた音声を聞いて解く条件とに分けて、正答数と時間を比較し、読み上げの補助が有効かどうかを検討しています。

4. 多層指導モデルMIM 読みのアセスメント・指導パッケージ

アセスメントと指導とが連動したモデルであり、読みのアセスメント(読むことのどの部分につまづきがあるか)と読みの指導をパッケージにしたものです。

■ 評価内容

- 早期の読み能力, 特に特殊音節を含む語の正確で素速い読みに焦点を当て, 計2分で実施します。
- 集団でも実施することができます。また, 継続的に実施することで, 児童生徒の伸びも把握することができます。

■ 指導内容

- 特殊音節を中心とした語の正確で素早い読み, 流暢性のある読みを育むことを目的としており, ひいては読解力へとつながっていくと考えられています。

5. その他のアセスメント

以下は有資格者(公認心理師など)による実施が必要となることが多いアセスメントですが、参考となる情報を示しておきます。

1. K-ABC II

- 認知尺度と習得尺度の2つの尺度からなる検査。認知面での障害や得意な部分の状況と、学力の習得の状況の両方の側面を、同時に調べて比較することができます。小学生から高校生程度までを対象にすることができます。

2. 特異的発達障害診断・治療のための実践ガイドライン

- 読み書きの困難に関するチェックリストがあり、児童生徒の読み書きのどのようなポイントに着目すべきかが示されています。

3. LDI-R

- 指導者が評定することによって、基礎的学力のつまずきを明らかにするもので、基礎的学力(聞く, 話す, 読む, 書く, 計算する, 推論する, 英語, 数学)と行動, 社会性の計10領域で構成されています。

4. REYの複雑図形

- 複雑な図形を視写する, 直後再生する, 遅延再生することで, 複雑な形状の知覚, 部分と全体の認知, 記憶定着などの状態を査定するために実施します。

Framework for Ensuring Students' Learning

学びを保障する実践フレームワーク

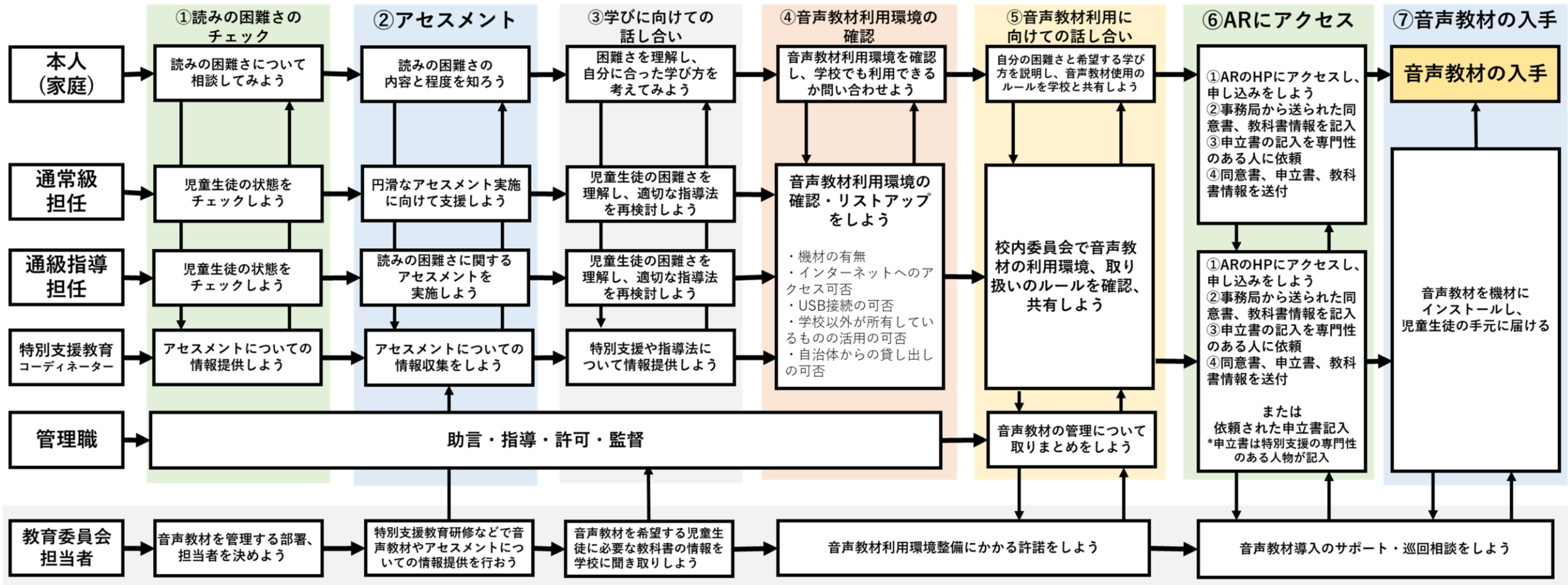
音声教材利用までに必要なことと課題

- ① 学校内でニーズのある個々の児童生徒にICT利用の許可をすること
- ② 個々の児童生徒が著作権法の特例措置のニーズがあることを示すこと
- ③ ICT を活用した学習指導ができる体制を整備すること

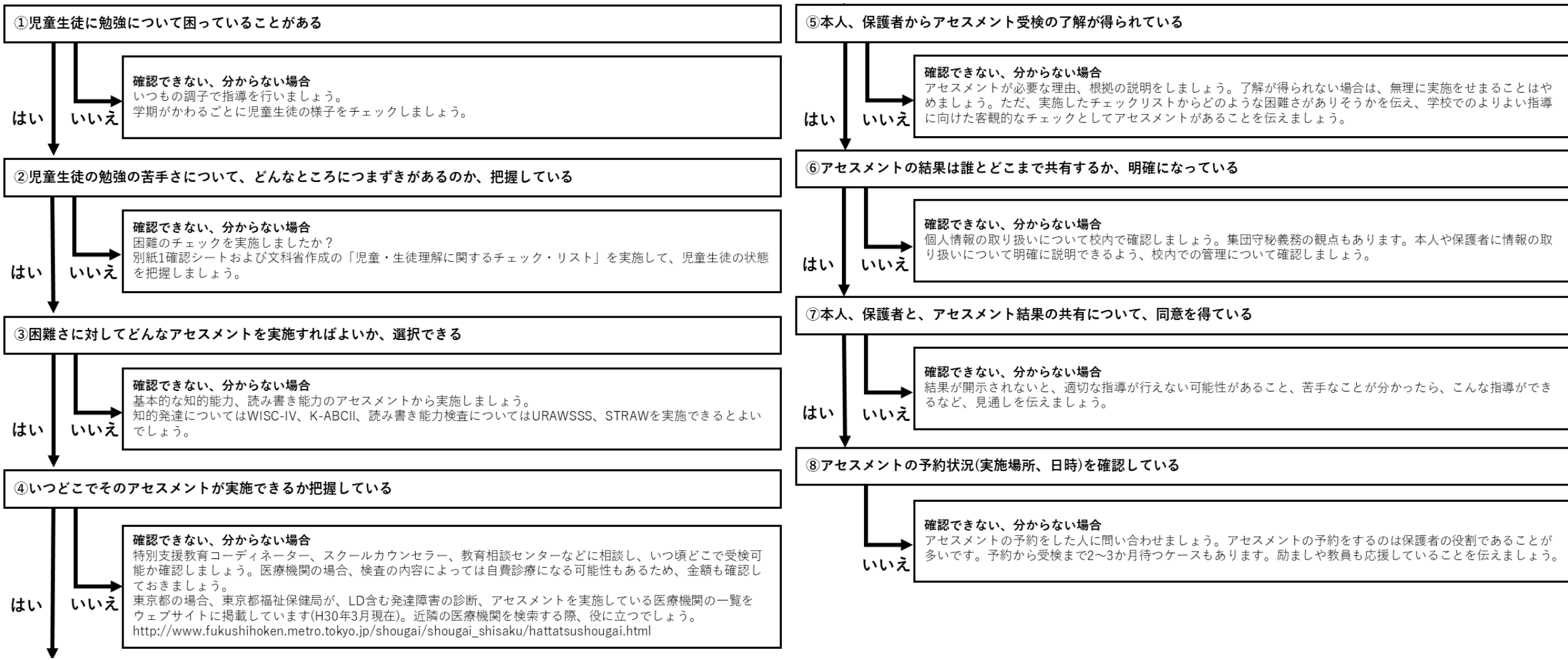


<音声教材利用までの課題>
音声教材を利用するまでに、
誰がどんな行動や役割を担う必要があるのか、
知識や専門性がないと判断が難しい

音声教材配信フレームワーク



児童生徒のアセスメント実施前に必要な確認事項

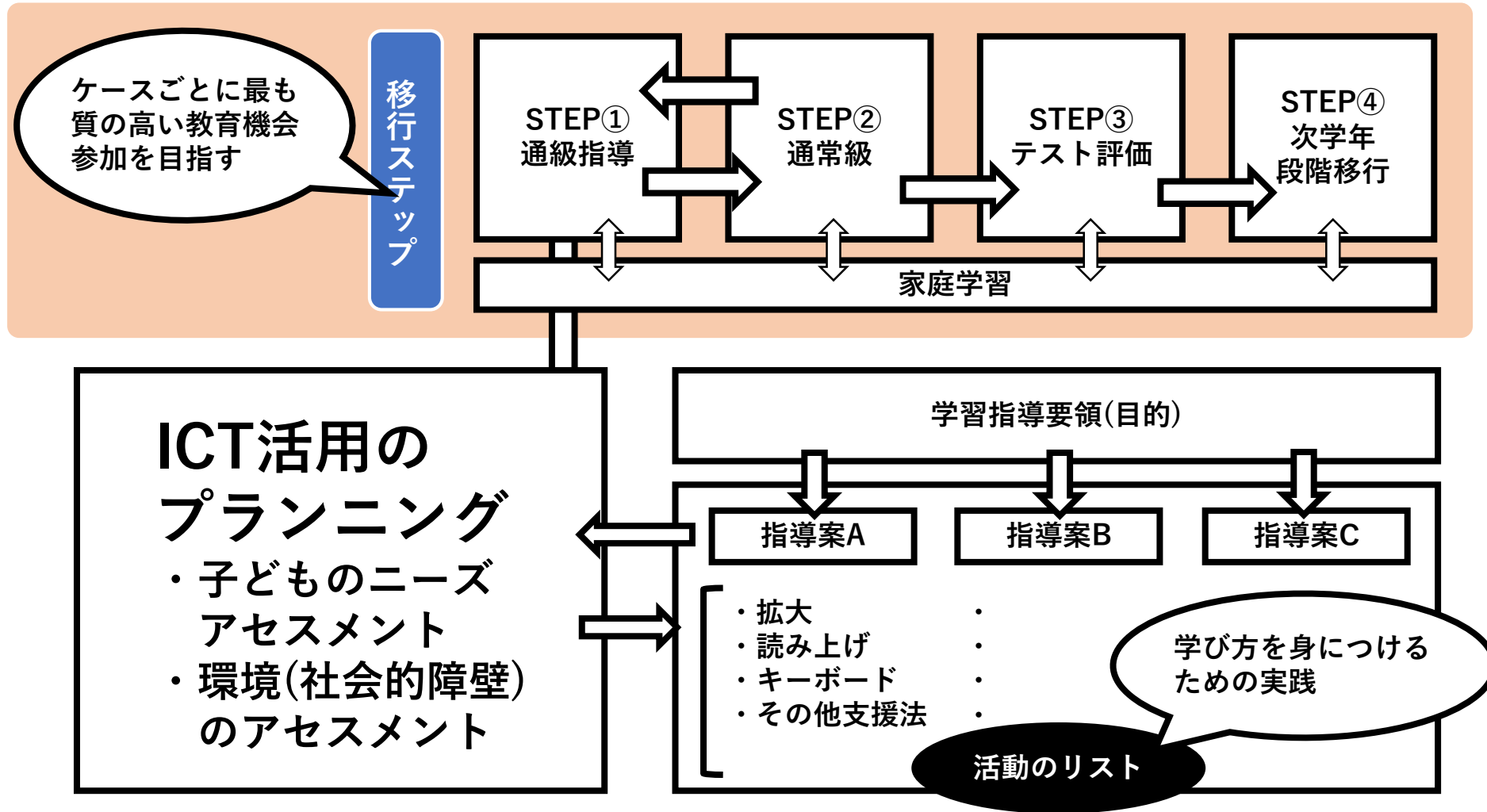


右上⑤に続く

音声教材利用環境の確認事項

<input type="checkbox"/> ①音声教材を使用できる機材がある	<input type="checkbox"/> ④ネットワーク環境が利用できる
音声教材を使用できる機材一覧 <input type="checkbox"/> iPad <input type="checkbox"/> WindowsPC <input type="checkbox"/> タブレットPC <input type="checkbox"/> スマホ <input type="checkbox"/> アンドロイド <input type="checkbox"/> 使用できる機材がない →使用できる機材は、学校の視聴覚室にあるパソコンなど、身近なところにもあります。許諾が必要な場合は、管理者に問い合わせましょう。	<input type="checkbox"/> 外部へのネットワーク接続可能 <input type="checkbox"/> 外部へのネットワーク接続不可能 <input type="checkbox"/> 一部の場所で外部へのネットワーク接続可能 (場所：) <input type="checkbox"/> 家庭でネットワーク接続ができる <input type="checkbox"/> 家庭でもネットワーク接続はできない →ネットワーク接続が不可の場合は、利用できないか学校長、教育委員会と交渉した上で、AccessReading事務局まで個別にお問い合わせください。
<input type="checkbox"/> ②音声教材を使用する機材の所有者が明らかになっている	<input type="checkbox"/> ⑤使用できる機材で音声教材を使用できるように設定する
主な所有者一覧 <input type="checkbox"/> 児童生徒所有のもの <input type="checkbox"/> 家庭が所有するもの <input type="checkbox"/> 学校が所有するもの <input type="checkbox"/> 教育委員会が所有するもの <input type="checkbox"/> 教員の私物 <input type="checkbox"/> その他 ()	<input type="checkbox"/> Windowsの場合 ・音声エンジンの確認 ・Wordの設定 ・Wordアドインソフトのインストール <input type="checkbox"/> iPad、Macの場合 ・読み上げ設定 ・EPUBファイルを使用できるアプリの確認(iBooks等) <input type="checkbox"/> アンドロイドの場合 ・読み上げ設定 ・EPUBファイルを使用できるアプリの確認 (Google Playブックス等) <input type="checkbox"/> 設定の仕方が全く分からない →AccessReading事務局にお問い合わせください。
<input type="checkbox"/> ③音声教材を使用する場所、保管場所が明確になっている	<input type="checkbox"/> ⑥データ管理者は誰か明確になっている
主な使用場所一覧(複数回答可) <input type="checkbox"/> 児童生徒の自宅 <input type="checkbox"/> 普通級 <input type="checkbox"/> 通級指導学級 <input type="checkbox"/> その他 () →家庭で使用する場合と学校で使用する場合、データ管理者が異なるため、申し込み窓口も異なります。家庭の機材を学校で保管するケースもあるため、確認しておきましょう。家庭と学校で併願も可能ですので、確認しておきましょう。	<input type="checkbox"/> 保護者 <input type="checkbox"/> 学校(担当者：) <input type="checkbox"/> 教育委員会

「移行支援」ICT利用による移行支援の流れ



学級

教科・単元のねらい、学習指導案

(特定の生徒にとって) **社会的障壁**はあるか？

- ・ 紙の教科書・教材
- ・ 紙のワークシート・試験問題
- ・ 構造化や視覚化がされていない口答指示 etc…

合理的配慮

- ・ 代替手段
- ・ 指導上の工夫
- ・ **本質**を考える (求められる**ゴール**は何か)

通級

ICTによる社会的障壁の解消を考える

書く	典型	筆記する	<ul style="list-style-type: none">・ 問いと答えを適切に対応させる・ 語彙を広げ正しく使う・ 文法を正しく使う・ 5W1Hを表現に含める・ 豊かな思考内容を表現する
	↓		
	本質	考えをまとめる 出力する	
読む	典型	音読／黙読する	<ul style="list-style-type: none">・ 単語・文節・文 段落・文章・ 話者は誰か、いつのことか、筆者は何を表現したいか・ 物語を／知識を得ることを楽しむ
	↓		
	本質	情報を得る	